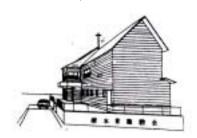
≪今朝の聖書から≫今朝の聖書箇所に描かれてい る話は、実際の歴史と重なっています。当時のパレスチナ、ユ ダヤの地は、ローマ皇帝の支配下にあり、王はこの皇帝の認め た者でなければならない事になっていました。B.C.4年に、皇 帝ヘロデ大王が死に、そのあとをヘロデ・アンティパス、ヘロ デ・ピリポ、ヘロデ・アケラオの息子が相続することになりま した。彼らがユダヤの王位につくには、ローマ皇帝アウグスト のもとに、出向かなければならなかったということになりま す。アケラオについての物語をユダヤ人なら、おそらく思いだ すことでしょう。王は領土を不在にすることになるわけですか ら、残された者達への信頼があった事に気が付きます。 られた"ということです。13 節に"そこで十人の僕を呼び十 ミナを渡して言った、「わたしが帰って来るまで、これで商売 をしなさい」。"とあります。丁度、私たちに、多くのことが委 ねられているのに似ています。まず、今朝はどんなに沢山のも のが神様から私たちに委ねられているかを思い起こしましょ う。商売というのは、まさしく日常的な行為です。ある出来事 のことをいうのではなく、日々の、たゆまぬ働きの結果です。 イエス様もそうでした。イエス様も30年間を日々のたゆまぬ、 我々と同じ働き人として過ごされました。そしてこの与えられ た信託も、結果をもたらします。十人の僕は、テストを受けた ことになるのです。17 節に"よい僕よ、うまくやった。あな たは小さい事に忠実であったから、十の町を支配させる" りますが、これこそ日常的な働きの積み重ねが評価されたこと を意味しています。しかしこの喩えは、人道的で民主的な福祉 のような考え方にはつながっていません。けれども、クリスチ ャンの毎日も、教会の毎日も、基本的には、昨日よりも前進し ているか、昨日よりも、より激しい壊れ方に向かっての一歩を 進んでいるかのどちらかです。十ミナについても(17節)、五 ミナについても(19節)、主の評価は、等しいものでした。 れがイエス様の経済学なのです。私たちは、比較をします。 かな方だ"とか"少ない方じゃないか"と思ってしまう世界に 住んでいます。レプタ二つを大切にされたイエス様は、こ も同じことを教えられ(ルカ21:2)、ミナ(1ミナは10 0デナリ、また重量もこれで表すことがありました)を用いて 私たちに、毎日チャレンジを受け続けることの大切さを教えて くださっているのです。恵みにはつながらない、優越感や劣等 感に振り回されないようにしましょう。

## 週報

2007年 10月 21日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 礼拝式 午前 10:30: 毎日曜日 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 7:00 毎水曜日 エステルの会 午前 10:30 毎水曜日 午後 7:00 http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **2054-345-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸